

平成27年7月10日(金)

老球の細道145

ヘラクレスの選択(ハーキュリー・チョイス)

会津バスケットボール協会 室井 富仁

ヘラクレスとは「ヘラの栄光」という名前を持つギリシャ神話の英雄である。全能の神ゼウスの不義の子として生まれ、ゼウスの妻ヘラにとことん憎まれる(母親の名を称しているのに・・・ヘラクレス=ヘラの栄光)。

ゼウスはヘラクレスに不死の力を与えようとして、眠っているヘラの乳を吸わせたが、目覚めたヘラは赤ん坊を突き放した。このとき飛び散った乳が天の川になったという。これを恨んだヘラは密かに二匹の蛇をヘラクレスが寝ている揺りかごに放ったが、ヘラクレスは素手でこれを絞め殺す。

ヘラクレスが大人になり、幸福な家庭を築いた時を見計らい、ヘラはヘラクレスを狂わせ、彼の子を惨殺するように仕向ける。そして、そのようになってしまう。正気に戻ったヘラクレスは自分の行為におののき絶望する。そんな彼に罪を償うために、アポローンは「ミュケーナイ王に仕え、12の勤めを果たせ」と助言する。

彼はこれに従い、本来なら自分になっているはずのミュケーナイ王に仕え、12年をかけその苦難の12の勤めを果たす偉業を達成することになる。このことから「ヘラクレスの選択(英語でハーキュリー・チョイス)」といえ、敢えて苦難の道を歩んでいく、困難なことを選択することを意味するようになった。

教員だった頃、冬場に福島への出張が多くなる。外は雪が積もり、道路はアイスバーンになり事故の危険度は大幅に増す。ほとんどの人は安全を意識して国道49号と4号線を乗りつないで行くか、高いお金を出して高速道路を使う。しかし、「ヘラクレスの選択」に影響を受けていた頃の私は、あえて土湯峠のルートを選び福島に行っていた。

車の運転の苦手な私にとってアイスバーンの山道を運転することは、まさに困難への挑戦だった。しかし、やりとげた後のご褒美は大きい。弱気を克服した達成感、高速料金の節約で美味しいお酒が買えた。ちっぽけな事例で申し訳ない。要は、何事も課題が難しければ難しいほど達成感は大きく、リスクが大きければ大きいほどリターンは大きく、喜びははかりしれないということである。

高校時代部活動において、何列かでグラウンドを走る時必ず外側を走る奴がいた。何周、何十周と走っていれば内側と外側では相当の距離の差が出る。敢えてそうすることで走る量に差をつける。同じように、練習で必ず一番最初にスタートする者、そして指定された回数より必ず多くやる者等・・・。これらもまた静かな「ヘラクレスの選択」だろう。

貧しく、耳も聞こえない状態で作曲活動に努力したベートーベンは、「困難を突き抜けて歓喜に至れ」と言った。また、イエスキリストは、新約聖書マタイ福音書で「狭き門より入れ、滅びにいたる門は大きく、その路は広く、入る者は多い」と伝えた。今はときめく「AKB48」なるグループも、真ん中で歌うためには、ものすごい競争の中で勝ち取らなければならないらしい。

私もギリシャ神話の故事にならって色々な試練を自らに課しながら生きていきたい。今のところバスケットボールのクリニックと孫娘のめんどうであたふたしている。人は試練と共に成長できる。